



上野南部自治協だより

平成28年9月15日発行

第31号

— 発行 —

上野南部地区住民自治協議会
上野南部公民館
伊賀市上野桑町1412
上野南部地区市民センター内
TEL: 23-5236

上野南部地区住民自治協議会ホームページを開設



ホームページアドレス

<http://ueno-nanbu.com>

向こう三軒両隣 ご近所の絆を取り戻そう運動 実施中！

上野南部地区住民自治協議会でホームページを開設しました。
今迄のブログでは広告等も入り、スペースが使いづらい状態が続いておりました。
今回のホームページ開設により、スマホでも簡単に閲覧
することができ、より多くの情報を住民の方々に伝えら
れる事と考えております。

お知らせ

上野南部地区住民自治協議会の最新の
ニュースを発信しております。

新着情報

各部会の活動報告などを掲載して
おります。

上野南部地区住民自治協議会について

会長挨拶・組織概要・各種資料等掲載しております。

公開講座・サークル活動

上野南部地区市民センターで行われている、公開講座やサークル活動の状況等を掲載しております。

ええとこ便り

伊賀の四季の移ろい、伊賀市や上野南部11町内で行われる行事等を掲載
しております。



上野中分団夏期訓練が開催される

8月7日（日）午前8時より極暑の中、上野西小学校グラウンドにおいて伊賀市消防団上野中分団夏期訓練が行われました。訓練開始と共に国旗、団旗に対する敬礼、通常点検のあと、分団管轄の自治協の会員参加のもと防災訓練が行われました。煙道歩行体験、伊賀における過去の震災、活断層の存在の説明、レジ袋を利用した応急手当の方法、新聞紙の活用法、エンジンカッターやジャッキを使っての救出方法、消火器の使用法や放水体験等、参加者全員が体験して防災意識を高めました。その後、分団員による一斉放水があり、分団員の士気を高めました。上野中分団の皆様はじめ、参加されました自治協の皆様、ご苦労さまでした。



（取材：田中 文夫）

上野万町夏祭り開催

毎年恒例の夏の風物詩夏祭りが8月7日（日）上野万町緑地公園にて開催。オープニングに大正琴の演奏、引き続き町民カラオケ大会が盛大に行われました。



（取材：上田 文司）

子どもたちが主役。地蔵盆各地で開催

まだまだ暑い日々が続くなかにも、朝夕には虫の声も聞こえる今日この頃、子どもたちも長かった夏休みも終わりに差し掛かり、残っていた夏休みの宿題に追われはじめる頃、各地で「地蔵盆」の最盛期を迎えています。



(8月20日池町自治会主催「地蔵盆」の様子)

地蔵盆は、地蔵菩薩の縁日で、道祖神信仰と結びついた「路傍や街角のお地蔵さん」いわゆる「辻地蔵」が対象となったといわれています。地蔵菩薩は、お釈迦様が入滅してから未来仏弥勒菩薩がこの世に現れるまで、人間界のみならず、地獄・餓鬼・修羅・畜生・天といった六道すべてにおもむき、人々を救済しました。平安時代に阿弥陀信仰と結びつき、地蔵信仰が民間に広がり、道祖神と同じように村を守る役割を果たすようになります。そして、地獄の鬼から子どもを救う守護神となり、全国的に地蔵菩薩が広がり、それぞれの道端にも石地蔵が見られるようになっていきます。しかし、地蔵盆として盛大にお祭りするところは、関西・中部周辺に限られており、関東・東北では、地蔵信仰が浸透していないため、地蔵盆もほとんど行われていません。

さて、地蔵盆はいつ頃からはじまったのでしょうか。上方随筆「難波鑑」《延宝8年(1680年)》には、「けふは地蔵の御えん日にて町々の辻にわらべども供物、燈明をかかげてまつる也」とあり、現在の地蔵盆につながる行事が、すでに江戸時代初期に上方で成立していたようです。また、「若狭国小湊領風俗問状答」《文化12年(1815)》には、「七月廿四日地蔵祭り、辻々の石地蔵迄・・・(中略)・・・いろいろの供え物、子供うち集まり頻りに鉦をならし、南無地蔵大菩薩と唱ふ」といった江戸後期の記事も、現在の地蔵盆の姿と基本的には変わりません。これらの記録や現在の分布状況からみて、地蔵盆は江戸時代初期頃から近畿を中心に次第に盛んになり、やがて中部・関西方面まで普及していったと考えるのが自然です。ただし、地蔵盆の起源については、道祖神信仰や愛宕信仰との関係を指摘する五来重(民族学者)説などもあり、なかなか結論がでておりません。

少子高齢化のもと、習慣も時代とともに変わりつつありますが、失われつつある地域社会の行事の一つでもある「地蔵盆」を大切に守り、受け継いでいくことが、引いては「子ども」を守り育て、また「町」を守り繁栄させる礎となると感じています。



(8月21日茅町自治会主催「地蔵盆」の様子)

(取材：栗本 了一)

【算額】さんがくについて

「恵美須神社プチ情報」

都市計画道路南平野木興線。上野南部地区住民自治協議会11町地内の上野茅町から上野愛宕町まで東西に通る道路であるが、22年前までは東の茅町から進んで銀座通りに当たるT字交差点の恵美須神社で止まっていた。道路拡張・交差点改良により恵美須神社が移動し現在地に遷座された。その神社跡地より東・西日南町、愛宕町へ直線で貫通する道路が出来、三町へのアクセスが向上し緊急車両の進入や防災上の利便性が向上した。

その恵美須神社が所蔵している全国的にも珍しい貴重なものをご紹介します。



【現在の恵美須神社】

1月19日・20日の初えびす大祭にお参りになった時などに、大きな算盤が拝殿に飾られているのをお気づきになったでしょうか。お気づきでなかった方は一度、拝殿のガラス障子越しに奥の右上をご覧ください。



そろばんがたさんがく

【算盤型算額】

算額とは、和算家が代数や図形の数学問題と解法等を書いて神社に奉納した絵馬の一種のことです。この算盤型算額は平成26年に伊賀市の有形民俗文化財に指定されています。大きさは縦57センチ、横181センチ、奥行き9センチと巨大なものです。そろばん型は珍しく、どうやら全国で現存する算盤として一二を争う大きさだそうです。

遷座前には、旧神社の拝殿正面から本殿に進む通路の頭上に飾られており、ニコボコリにまみれてくすんでいました。私がかのころから「えべっさん」の境内で近所の子供達と遊び、見慣れたものであったので、まさか文化財級の代物とは思っていませんでした。しかし、有識者からは、これは大変貴重なものであるとの事で、遷座を機会にクリーニングを施し木製のガラスケースに入れて大切に保存処理されました。

算盤の刻印を読むと「平野屋和造」の門弟らが安政6年（1859）に奉納したとある。ただ「平野屋」がどういう人物かは分かっていない。この様な、立派で高価な算額を奉納するという事は、彼らが決意と誇りをもって活動していた証である。敢えて筆者が思うことを言うならば、「平野屋」は、当時の算盤計算の技術集団だったのだろうか。藩の建築物普請や土木工事又、計算競技会等で活躍したのであろうかと様々なことを勝手に思いを馳せている。

今思うと、私にとって残念なことは、この有り難い算額の下で幼少の頃より毎日チョロチョロしていた。遊び終えて帰るときに算額のもつ数学才能のご利益を砂ホコリと一緒に叩き落として家に帰ってしまっていたという事である。

（取材：町野 恭司）